

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	プロジェクト演習3		授業コード	C189551
担当教員名	星芝 貴行、赤星 哲也、濱田 大助、伊藤 研、足立 元、坪倉 篤志、吉森 聖貴、福島 学		科目ナンバリングコード	
配当学年	4	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	授業目的にあるようにチームを組んで問題解決に取り組み、得られた成果を発表します。一人ひとりの積極性と、チーム内での役割をこなすことが求められます。			
受講心得	受け身の姿勢にならず、積極的な姿勢で授業に臨んでください。			
教科書	必要な資料を配布します。			
参考文献及び指定図書	映像制作領域： ・映像編集の秘訣1 (協)日本映画・テレビ編集協会編 ・映像編集の秘訣2 (協)日本映画・テレビ編集協会編 ・分かりやすい文章の技術 藤沢晃治著 (講談社:ブルーバックス) ・分かりやすい表現の技術 藤沢晃治著 (講談社:ブルーバックス) ・分かりやすい説明の技術 藤沢晃治著 (講談社:ブルーバックス) ・情報を見せる技術 中川佳子(光文社親書106) ・一人でもできる映画の撮り方 西村雄一郎著 洋泉社			
関連科目	(先修科目) プロジェクト演習1 プロジェクト演習2			

授業の目的	<p>この科目は、米国でいうところのDesign科目、Capstoneプロジェクトに相当する科目です。現実的性格をもつ諸問題に対し、学生自らが問題テーマを設定し、これまでの授業科目で習得した知識・技術を横断的、相互有機的に連結させながら、チームを組んで問題解決に取り組み、最後に、得られた成果を報告書としてまとめプレゼンテーションを行い、担当教員全員による審査を受けます。問題解決の手法としてはPlan-Do-See-Check-Actのプロセスを重視します。</p> <p>プロジェクトテーマの設定にあたっては、企業からの委託研究や、地域の各種公共団体から寄せられる公共的テーマ、コンクールへの参加など、多様なケースが想定されます。この科目の到達目標は、チームによる問題解決能力など、広範な社会人基礎力を身につけることです。</p>
授業の概要	<p>◆プロジェクト演習3の到達目標</p> <p>4年生(本科目受講者)は企画・シナリオ作成・演出を担当します。プロジェクトのリーダーとして3年生(プロジェクト演習1受講者)スタッフを指揮し、スタッフワークをそれぞれの責任を自覚させながら完遂させます。リーダーとして映像作りに携わる経験を通して、これまで学んできた映像制作に関する知識と技術を実際のなかに伸ばすことをねらいとしています。</p>

○授業計画	
学修内容: 詳細な内容は授業時に説明します。	学修課題(予習・復習)
第1週: 計画書作成	プロジェクト計画書
第2週: 計画書作成	プロジェクト計画書
第3週: 調査・研究・制作等	レポート、調査資料、作品素材等
第4週: 調査・研究・制作等	レポート、調査資料、作品素材等
第5週:	

調査・研究・制作等	レポート、調査資料、作品素材等
<b>第6週：</b> 調査・研究・制作等	レポート、調査資料、作品素材等
<b>第7週：</b> 調査・研究・制作等	レポート、調査資料、作品素材等
<b>第8週：</b> 調査・研究・制作等	レポート、調査資料、作品素材等
<b>第9週：</b> 調査・研究・制作等	レポート、調査資料、作品素材等
<b>第10週：</b> 調査・研究・制作等	レポート、調査資料、作品素材等
<b>第11週：</b> 調査・研究・制作等	レポート、調査資料、作品素材等
<b>第12週：</b> 調査・研究・制作等	レポート、調査資料、作品素材等
<b>第13週：</b> 調査・研究・制作等	レポート、調査資料、作品素材等
<b>第14週：</b> 調査・研究・制作等	レポート、調査資料、作品素材等
<b>第15週：</b> 調査・研究・制作等	レポート、調査資料、作品素材等
<b>第16週：発表会</b> プレゼンテーション	報告書、発表資料
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式 「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式
	(3)アクティブ・ラーニング
<b>備考</b>	

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	各チームのテーマに対して深く理解し、自ら意欲的に活動する。
<b>【知識・理解】</b>	専門的な知識をもとにプロジェクトテーマに関する理解を深める。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	プロジェクトテーマに関する専門的な技能と表現力を高める。
<b>【思考・判断・創造】</b>	専門的な知識・技能・表現力をもとに、独自性のある視点から問題解決にあたる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		20点	5点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点	5点	
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点	5点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		20点	5点	
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	